



小田原

とき

かいろう

時の回廊

このパンフレットは、小田原の歴史をテーマに、皆様が散策を楽しんでいただけるよう編集しました。中世以降、皆様もよくご存知の人物が小田原に生まれ、活躍しました。そして、小田原が日本の歴史を左右する舞台にもなりました。

悠久の歴史とロマンが築いた「時の回廊」をどうぞお楽しみください。

目次

小田原城とその周辺

MAP A

小田原城	6
天守閣	8
常盤木門	9
銅門	9
馬出門	10
大手門跡	11
北条氏政・氏照の墓所	11
八幡山古郭	12
総構の遺構	12
小峯御鐘ノ台大堀切	13
早川口遺構	13
蓮上院土塁	13
御感の藤	14
報徳二宮神社	14
大久保一族と大久保神社	15
大久寺	15

別荘時代の

小田原を訪ねる

MAP B

滄浪閣跡	16
古稀庵	17
山月(旧共寿亭)	17
松永記念館・老樗荘	18
西海子小路と文学館	19

小田原合戦と

石垣山の史跡

MAP C

小田原合戦	20
石垣山一夜城跡	22
早川石丁場群	23

稲葉一族と

長興山の史跡

MAP D

長興山紹太寺	24
稲葉一族の墓所 (春日局の墓)	25
長興山のしだれ桜	25

曾我十郎・五郎兄弟

ゆかりの里

MAP E

曾我兄弟の仇討ち	26
城前寺	27
六本松跡と芭蕉の句碑	28
伝曾我十郎・ 虎御前の「忍石」	28
伝曾我祐信宝篋印塔	28
宗我神社と尾崎一雄	29

源平合戦の地

・石橋山古戦場

MAP F

石橋山古戦場	30
佐奈田与一と佐奈田霊社	31

五百羅漢から

久野の史跡めぐり

MAP G

天桂山玉宝寺(五百羅漢)	32
久野の古墳群	33
北条幻庵屋敷跡	33

二宮尊徳の

遺跡めぐり

MAP H

二宮尊徳	34
------	----

小田原の歴史年表

時代・年代	出来事	関連頁
旧石器時代	約35000年前～ 八幡山遺跡でナイフ形石器が使われる	12
縄文時代	前4000年頃 羽根尾貝塚が形成される(縄文時代のタイムカプセル)	
弥生時代	前100年頃 中里遺跡(東日本最古の本格的な弥生集落)で環濠集落が営まれる	
古墳時代	足柄平野で最大規模の久野1号古墳が築かれる	33
	田島や羽根尾で集落が営まれ横穴墓群が遺される	26
奈良時代	(7世紀末～8世紀初) 相模国で寺院が創建される(千代寺院跡、通称「千代廃寺」)	
平安時代	曾我物語の主人公曾我兄弟が曾我的地で幼年期を過ごす	26.27
	治承4年(1180)石橋山合戦起こる	30.31
鎌倉時代	建久4年(1193) 曾我兄弟が父の仇討ちを遂げるも十郎は討ち死に、五郎は処刑される。	26.27
室町時代	南北朝時代	
	戦国時代	
南北朝時代	文和元年(1352) 足利尊氏軍と足利直義軍が早川尻で戦う(早川尻合戦)	
	応永24年(1417) 上杉禅秀の乱が終わり、その功により大森頼春が進出する(15世紀中頃小田原城を築く)	12
戦国時代	明応4年(1495)頃 伊勢宗瑞(北条早雲)が小田原進出を果たす	6
	永正3年(1506) 北条早雲、検地を行う(早雲の西部検地)	
	永禄4年(1561) 長尾景虎(上杉謙信)小田原来攻	
	永禄12年(1569) 武田信玄小田原来攻	
安土桃山時代	天正18年(1590) 総構がほぼ完成する	12
	天正18年(1590) 豊臣秀吉との小田原合戦により北条氏が滅亡(秀吉による天下統一と戦国時代が終焉)し、大久保忠世が小田原城主となる	20.21
江戸時代	慶長19年(1614) 大久保忠隣、所領(小田原藩)を没収される	15
	元和5年(1619) 阿部氏が小田原城主となる	
	寛永9年(1632) 稲葉氏が小田原城主となり、小田原城の改修工事に着手する	7.24
	貞享3年(1686) 大久保氏が再び城主となる	7.15
	元禄16年(1703) 元禄の関東大地震が発生。小田原城全壊する	7
	宝永4年(1707) 富士山が噴火する	
	宝永5年(1708) 酒匂川の大口土手が決壊	
	正徳元年(1711) 大雨により再度、大口土手が決壊し酒匂川の流路が西にずれる	

江戸時代	享保元年(1716) 富士山噴火後幕府領となっていた相模・駿河2国の元小田原藩領2万7948石が藩領に復帰する	
	享保19年(1734) 酒匂川大洪水が起こる	
	天明7年(1787) 二宮金次郎(尊徳) 栢山村に生まれる	34.35
明治	寛政9年(1797) 川口広蔵が荻窪村へ早川から水を引くため寛政9年(1797)から5年かけて荻窪堰(せき)を開削、水田60haをひらく	
	明治元年(1868) 北村透谷、唐人町で潘医の孫として生まれる	19
	明治3年(1870) 小田原城廃城。天守・櫓等は売却、解体撤去される	7
	明治4年(1871) 小田原藩は小田原県となり、同年中に足柄県となって県庁が小田原に置かれる	7
	明治9年(1876) 足柄県は神奈川県に編入される	
	明治20年(1887) 東海道本線が国府津まで開通する	
	明治23年(1890) 伊藤博文が本町に滄浪閣をつくる	16
	明治34年(1901) 二の丸以内が御用邸用地となり御用邸がつくられる	7
	明治40年(1907) 山縣有朋(元樞密院議長)が板橋に古稀庵をつくる	17
	大正	大正7年(1918) 北原白秋が城山にみづくの家を建て、8年間小田原で暮らし、多くの童謡詩をつくる
大正12年(1923) 関東大震災が起こる		
昭和	昭和9年(1934) 隅櫓復興	6
	昭和12年(1937) 尾崎一雄『暢気眼鏡』で第5回芥川賞を受賞	19.29
	昭和13年(1938) 小田原城跡が国指定史跡となる	6.7
	昭和15年(1940) 小田原町・足柄町・大窪村・早川村・酒匂村の一部が合併し、小田原市となる	
	昭和20年(1945) 8月15日、小田原空襲	13
平成	昭和21年(1946) 松永安左衛門、小田原に移住	18
	昭和35年(1960) 天守閣復興	8
	昭和46年(1971) 常盤木門復興	9
	平成9年(1997) 銅門復元	9
	平成21年(2009) 馬出門復元	10

天守閣

MAP A-1

天守閣は、昭和 35 年に市制 20 周年記念事業として総工費約 8 千万円をかけて復興された小田原市のシンボルです。江戸時代に造られた雛形や引き図（宝永年間の再建の際に作られた模型や設計図）を基に、江戸時代の姿として外観復元され、内部は歴史資料の展示施設となっています。

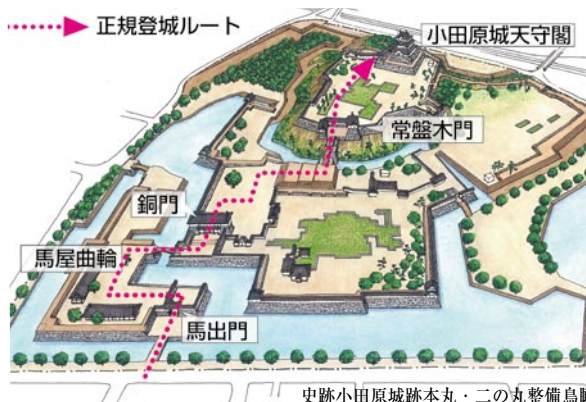


復興に当たっては、「瓦一枚運動」が展開され、多くの市民からの寄付が寄せられました。天守閣は、3 重 4 階の天守櫓に付櫓・渡櫓を付した複合式天守閣で、地上 38.7 m、鉄筋コンクリート造、延床面積 1822㎡となっています。

なお、小田原市では平成 18 年に天守閣の高さを基準とした高度規制を行い、天守閣の高さを超える建物の建築を制限し、長い時間をかけて育まれてきた歴史景観を次代に受け継いでいくこととしています。

- 開館／9:00～17:00(入館16:30まで)
- 休館／年末年始
- 入場料／大人400円・小人150円

正規登城ルート



史跡小田原城跡本丸・二の丸整備鳥瞰図

常盤木門

MAP A-2

小田原城本丸には常盤木門、鉄門の2つの城門くろがねもんがありました。このうち常盤木門は本丸の正門にあたり、重要な防御拠点であったために、他の門と比べても大きく、堅固に造られています。多聞櫓と渡櫓門を配し、多聞櫓は武器等の貯蔵庫として用いられていました。



門の傍らに立つ松（常盤木）にちなんで、小田原城の永久不変の繁栄を願って、常盤木門という名がつけられたと伝えられています。

銅門

MAP A-3



銅門は、小田原城二の丸の表門にあたり、馬屋曲輪から住吉橋を渡り、二の丸主部へと通じる大手筋に設けられた樹形門です。銅門の北側には藩主の居館である二の丸御屋形がありました。江戸時代前期に稲葉正勝が城主となった時期に行われた普請の中で銅門も築かれたものと考えられています。

銅門という名前は、大扉などに使われた飾り金具に、銅が用いられたことに由来します。

うまだしもん 馬出門

MAP A-4

馬出門は、馬出門と内冠木門うちかぶきもんの2つの門を配した構造となっています。

この門は、二の丸正面に位置する重要な門で、江戸時代の初期からこの場所に存在し、寛文12年(1672)に改修され、江戸時代の終わりまで存続しました。馬出門は、明治5年(1872)に取り壊されましたが、平成21年に137年ぶりに復元されました。



小田原城歴史見聞館

小田原城歴史見聞館は二の丸に位置し、小田原城の歴史を戦国時代や江戸時代にタイムスリップしたような感覚で、音声と映像により楽しむことができる情報館となっています。



- 開館／9:00～17:00(入館16:30まで)
- 休館／年末年始
- 入場料／大人300円・小人100円

大手門跡【国指定史跡】

MAP A-5

江戸時代、三の丸には重臣の屋敷や藩の施設が置かれ、二の丸・御用米曲輪ごようまいぐるわ・南曲輪みなみぐるわを大きく取り囲むように配置されていました。この三の丸には4つの出入りが設けられており、そのうち、東の大手口、北の幸田口、南の箱根口は、堅牢な石垣で固めた柵形門となっていました。

江戸時代初期の小田原城の大手口は箱根口でしたが、稲葉氏の時代に江戸に向く現在の場所に移されています。

大手門跡の石垣の上には、大正時代に移設された時の鐘があり(現在の鐘は昭和28年製)、午前6時と午後6時に鐘を打ち、市民に時を知らせています。



▲大手門跡の鐘楼

北条氏政・氏照の墓所【市指定史跡】 MAP A-6

小田原合戦の責任を取って自害させられた4代氏政と弟氏照(八王子城主)は、この場所にあった伝心庵に葬られました。後に伝心庵は移転し、墓は放置されてしまいましたが、稲葉氏の時代に、追福のために作り直されました。しかし、それも関東大震災で埋没し不明となったため、翌年地元の有志によって

復興されました。

墓地内には、五輪塔、笠塔婆型墓碑、石灯笼や、氏政・氏照がこの石上で自害したと伝わる生害石しょうがいせきがあります。



はちまみやまこかく 八幡山古郭

MAP A-7

八幡山古郭は、八幡山遺構群とも呼ばれ、小田原駅の南西側に位置する丘陵上に東曲輪などいくつかの曲輪を展開し、戦国時代の小田原城を形成した場所です。県立小田原高等学校校地内の発掘調査でも、大規模な石組みを持つ井戸や障子堀などが確認されています。【東曲輪は国指定史跡】



▲八幡山古郭（現天守閣より撮影）

そうがまえ 総構の遺構

北条氏は、豊臣秀吉との合戦に備え、天正18年(1590)までに小田原城とその城下を囲う周囲約9kmにも及ぶ大規模な空堀と土塁を築きました。散策路として整備され堀底を散策できる「小峯御鐘ノ台大堀切東堀」や「早川口遺構」、「蓮上院土塁」など、現在も各所に総構の名残を示す堀や土塁の痕跡が残ります。



▲小峯御鐘ノ台大堀切東堀

こみねおかねのだいおほりきり

小峯御鐘ノ台大堀切

【国指定史跡】

MAP A-8

小峯御鐘ノ台大堀切は、本丸へと続く八幡山丘陵の尾根を分断して構築されたものです。

この遺構は、慰霊塔側にある東堀、現在は道路になっている中堀、西側にある西堀の三本の空堀で構成されています。

当時の様子が最も良く残っている東堀は幅が約20～30m、深さは土塁の頂上から約12mあり、堀の法面は50度という急な勾配で、空堀としては全国的にも最大規模のものといえます。

早川口遺構【国指定史跡】

MAP A-9

早川口遺構は、^{ふたえとぼり}二重外張と呼ばれる土塁と堀を二重に配した構造となっていることから、この付近に出入口である虎口があったと考えられています。

この遺構は、小田原城総構の南西に位置し、低地部で見ることのできる数少ない土塁跡のひとつです。



蓮上院土塁【国指定史跡】

MAP A-10

蓮上院土塁は、早川口遺構とともに小田原城総構の中でも低地部にある遺跡として、貴重なものです。

土塁の外側には渋取川を配し堀としていました。

昭和20年(1945)の小田原空襲で投下された爆弾のひとつが着弾し、土塁が大きく損壊しました。そのため、戦国時代の史跡に昭和時代の戦争の傷跡が残る大変貴重な史跡といえます。

御感の藤ぎょかん ふじ【市指定天然記念物】

MAP A-11

御感の藤は、大正天皇が皇太子の頃、小田原御用邸にご来臨の時に、この藤の花の下に召馬がかけ込み花を散らしたので、皇太子は「見事な花に心なきことよ」としばらく馬を止めて感嘆されたため、その名がついたといわれています。

その後、大正11年(1922)、小田原保勝会の人々の尽力によって現在の位置に2株を移し植え、これらを「御感の藤」と呼んでいます。



報徳二宮神社

MAP A-12

小田原に生まれ、農村復興に尽力した二宮尊徳をまつ祀った社です。

明治27年(1894)4月に建てられ、盛大な遷宮式が行われました。

農家の家に育ち天災地変たんだんと戦い、これを克服し、当時の小田原城主大久保忠真に登用され、数々の業績を残した尊徳を祀るために、天守閣下の地を選んで建設しました。

境内には「二宮翁夜話まさえ」を著した福住正兄翁の碑があり、付近には尊徳の資料を展示した報徳博物館もあります。



※二宮尊徳については P34 参照

大久保一族と大久保神社

MAP A-13

江戸時代、小田原城の初代城主となった大久保忠世ただよは、三河国の大久保忠真ただかすの長男として天文元年(1532)に生まれました。

忠世は、天正3年(1575)の長篠の戦いで、弟忠佐ただすけとともに活躍し、徳川家康に遠州二俣城主に命じられ、その後、天正18年(1590)、豊臣秀吉の小田原攻めでは家康に従い参戦し、戦後は4万5千石で小田原城主ただらかとなりました。

忠世の子、2代忠隣ただらかの時代に大久保家は改易になりますが、その後大名に復活し、5代忠朝ただとものとき11万3千石で小田原藩主に返り咲きました。11代忠真ただまねは、大阪城代、京都所司代、老中など幕府要職を歴任し、藩政においては二宮尊徳を始め多くの人材を登用し、忠臣孝子を顕彰するなど、大久保家中興の名君として知られています。以降、大久保家は15代忠良の時代に行われた廃藩置県まで小田原藩主を務めています。

市内の城山にある大久保神社では、忠世と忠真を祀っていますが、明治33年(1900)までは、現在の天守閣がある天守台にありました。



▲大久保神社

大久寺だいきゆうじ

MAP A-14

大久寺は、小田原城主大久保忠世を開基とする寺で、大久保家の菩提寺です。大久保家の当主は、初期には大久寺に葬られましたが、中期以降は主として江戸青山の教学院(現在は、世田谷区太子堂に移転)に葬られていました。初代・忠世の墓石は法華五輪塔の代表的なもので損傷もなく立派なものです。2代忠隣など7基の墓石が並んでいます。

【大久保一族の墓所は市指定史跡】

別荘時代の小田原を訪ねる



明治20年(1887)に東海道線が国府津まで開通すると、温暖な気候と美しい景観によって、小田原は、別荘地や保養地として注目を集めました。

そうろうかく
滄浪閣跡

MAP B-1

滄浪閣は、明治23年(1890)、伊藤博文が御幸の浜に面した古松の中に設けた別荘です。当時、民法草案の起草委員を命ぜられた穂積陳重ほづみのぶしげ・富井雅章・梅謙次郎らと、ここで民法の草案を練り、起草したことから、「民法発祥の地」と呼ばれています。明治30年に、伊藤は滄浪閣を大磯に移したため、この建物は旅館として利用されましたが、大正12年(1923)の関東大震災により全壊しました。

門前には滄浪閣旧跡の碑と伊藤博文公の胸像があります。

こきあん
古稀庵

MAP B-2

古稀庵は、明治の元勳げんくん・山縣有朋やまがたありとも(首相、枢密院議長、陸軍元帥)が、明治40年(1907)、70歳のときに構えた別荘です。相模湾と箱根山を借景し築造された古稀庵は、有朋の所有であった目白椿山荘むりんあん・京都無隣庵とともに、近代日本庭園の傑作といわれています。

庭内を流れる水は、山縣水源池に貯められた水を使っていました。これは山縣が個人水道として荻窪用水から取水したもので、その総延長は1860mにも及びます。

- 開館／毎週日曜日、10:00～16:00
- 問合せ／あいおい保険小田原研修所
TEL.0465-23-5615
- 入園料／100円

さんげつ
きょうじゅてい
山月(旧共寿亭)

MAP B-3



山月は、明治、大正期の実業家(男爵)大倉喜八郎が、大正9年(1920)に建築した別荘で、当時は共寿亭と名付けられていました。

この建物は、外観は御殿風ですが、内部は瀟洒な造りで、関東大震災でもほとんど被害がなかった堅固な別荘建築です。

京都御所を模した庭園は、3500坪もの広さを誇ります。庭内には伊藤博文が命名した「志らく雲の籠しらくも たまき」があり、傍には自書による命名記念碑が建立されています。現在は、割烹旅館として利用されています。

- 営業時間／11:00～21:00
- 問合せ／割烹旅館山月
TEL.0465-24-2316

松永記念館・老櫓荘

MAP B-4



松永記念館は、昭和の電力界の中心的存在であった松永安左工門まつながやすざえもんが長年にわたり収集した古美術品を一般に公開し、広く愛好者に親しんでもらおうと昭和34年(1959)に設立された施設で、安左工門の没後、本市に土地と建物が寄贈され、昭和55年に小田原市郷土文化館分館として開館しました。

安左工門は実業界で活躍する一方、茶道にも造詣が深く『耳庵じあん』と号し、茶会には茶人、政治家、学者をはじめ多くの著名人を招き、「最後の数寄茶人」とも呼ばれています。老櫓荘は耳庵が晩年を過ごした別邸で、茶室・広間・寄付など各部屋の意匠に特徴をもつ近代数寄屋建築です。

敷地内には、三越の社長などを歴任し、茶人としても知られる野崎廣太(幻庵)の茶室「葉雨庵はうあん」も移築され、庭の所々には奈良・平安時代の石造物が点在する見所の多い名園でもあります。

常設展として耳庵ゆかりの品々を展示し、企画展や秋の特別展では優れた美術品の展覧会を開催しています。

【老櫓荘と葉雨庵は国登録有形文化財】

■開館／9:00～17:00

■休館／年末年始

■入館料／無料

さいかちこうじ
西海子小路と文学館

MAP B-5



西海子小路の名は、この地にサイカチの木が植えられていたためといわれています。

この地名は、小田原藩主稲葉氏の「永代日記(承応2年(1853))」の記載に見られます。江戸時代の後期には、中堅藩士の武家屋敷地となり、江戸時代末期には、17軒ほどが道の両側に並んでいました。

この周辺には、明治から昭和にかけて多くの文学者が居を構え、文学活動が行われていました。この小路の一角にある小田原文学館は、元宮内大臣田中光顕伯爵の別邸として建てられた洋館を利用して、本市にゆかりの深い文学者の資料を展示しています。また、北原白秋の資料を展示している和風建築物の白秋童謡館や、昭和を代表する私小説家尾崎一雄の書斎(移築)もあります。

ここから小田原駅西口までの間は、「白秋童謡の散歩道」として、小田原で多くの童謡を創作した北原白秋の足跡をたどる散歩道として整備されています。

小田原文学館

■開館／9:00～17:00(入館は16:30まで)

■休館／年末年始

■入館料／大人250円・小人100円

文学館周辺の文学者ゆかりの地

名前	代表作	生誕・居住地	MAP
北原白秋	からたちの花、ベチカ	城山4-19-8	B-6
三好達治	測量船	南町4-9	B-7
谷崎潤一郎	痴人の愛、細雪	南町3-1-20	B-8
斉藤緑雨	かくれんぼ	南町3-1-15	B-9
坂口安吾	白痴	南町2-2	B-10
川崎長太郎	伊豆の街道、抹香町	浜町3-3-6	B-11
井上康文	愛する者へ、梅	本町2-4-38	B-12 ※
牧野信一	ゼーロン、鬼涙村	栄町2-8-5	B-13 ※
北村透谷	内部生命論	浜町3-11-14	B-14 ※

※は生誕地、他は居住地

小田原合戦と石垣山の史跡



←夜城から小田原城を望む

小田原合戦

戦国時代、天下統一の動きは、織田信長から羽柴秀吉(豊臣秀吉)に受け継がれ、九州を平定した秀吉は、関東の北条氏を従わせようとしていました。

秀吉が小田原を攻めるきっかけとなったのは、真田氏の領地である上野(群馬県)・名胡桃城をめぐるとの事件でした。

秀吉はかねてから北条氏の上洛を促していましたが、北条氏は上野・沼田領問題が解決していないことを理由に応じませんでした。そこで、秀吉は沼田の3分の2を北条氏に、名胡桃城を含む3分の1を真田氏とする裁定を下し、氏政・氏直父子のどちらかの上洛を約束させました。



▲小田原合戦攻防図

しかし、これが果たされないうちに、北条氏側の武将が名胡桃城を攻撃したため、秀吉は北条氏に対して宣戦布告を行ったのでした。「北条事、近年公儀を蔑み上洛する能わず殊に関東において雅意にまかせ狼藉の条、是非に及ばず。」秀吉は激しい調子の宣戦布告状を氏直に送り、天正18年(1590)3月、全国の諸将率いる約18万の大軍で陸海から小田原攻めを開始しました。これに対し北条氏は、約5万の兵を置き籠城戦法で対抗しました。秀吉は、早川の石垣山に城を築き長期戦に備えましたが、7月5日ついに氏直は降伏し、7月9日に城が明け渡されました。

この小田原合戦において秀吉は、千利休に命じて江之浦の大野五郎兵衛の屋敷内に数寄屋を造らせ茶の湯を点てるなど武將らの労をねぎらい、この数寄屋は後に天正庵と言われるようになったと伝承されています。

この戦いの責任をとり、城主氏直の父4代北条氏政とその弟の八王子城主氏照は切腹させられ、徳川家康と外戚関係にあった氏直は高野山(和歌山県)に追放されました。

石垣山一夜城跡【国指定史跡】

MAP C-1



▲石垣山一夜城歴史公園・本丸跡

石垣山は、天正18年(1590)豊臣秀吉が北条氏を約18万の大軍を率いて包囲し、その本営として総石垣の城を築いたことから、そう呼ばれるようになりました。この城が、世に「石垣山一夜城」、または「太閤の一夜城」と呼ばれるのは、秀吉が築城にあたり山頂の林の中に塀や櫓の骨組みを造り、白紙を張って城壁のように見せかけ一夜のうちに周囲の樹木を伐採し、それを見た小田原の城中の将兵が驚き士気を失ったためと言われています。しかし、実際には延べ4万人が動員され、築城には約80日間が費やされました。秀吉は、この城に側室の淀君や千利休、能役者を呼び茶会を開いたり、天皇の勅使を迎えたりしました。



▲一夜城の石垣

この城は、関東で最初に造られた総石垣の城で、石積みは野面積みといい、長期戦に備えた本格的な城構えであり、当時の面影が今も残されています。

早川石丁場群

MAP C-2

早川石丁場群は、早川へと注ぐ関白沢の東側を中心とする地域にあり、江戸城の石垣を造るための石を切り出した「石丁場」の跡が残っています。江戸城の築城に際しては、神奈川県西部から伊豆半島を中心とする地域に所在する箱根火山により生成された安山岩という石材が多数使用されました。各大家は、自らが命じられた江戸城の石垣普請用の石材を入手するため、各地で石丁場の確保に努めました。市内では、久野や石橋などにも大家が確保した石であることを示すために記した刻書を確認することができます。

早川の石丁場は、石垣用の石材の中でも「角石」と呼ばれる石垣の角の部分に使われる大きな石を専用に採取した特別な石丁場であり、御三家(尾張・紀伊・水戸)などの大家の関与が想定されます。ここで切り出された石は、早川を下り相模湾から海路、遠く江戸まで運ばれました。

現在、早川などに残る石は、何らかの理由で江戸城まで運ばれなかった石とすることができますが、今でも「矢穴」と呼ぶ、石を割る際に掘られた穴や刻印が確認され、往時を偲ぶことができます。



▲早川石丁場群関白沢支群

稲葉一族と長興山の史跡



長興山紹太寺

MAP D-1

長興山紹太寺は、江戸時代初期の小田原藩主であった稲葉一族の菩提寺で、宇治万福寺から招かれた鉄牛和尚の開山です。

寛永9年(1632)、将軍家光は、自らの政権をより強固なものとするため、側近であった幕府老中職の稲葉正勝を関東支配の鍵となる小田原城主としました。正勝の母は、将軍家光の乳母をつとめた春日局かすがのつぼねでした。しかし、正勝は、入封2年後の寛永11年正月に38歳で急死し、家督を相続したのは若干12歳の正則でした。本来であれば、お取りつぶしという事態でしたが、正則が春日局の孫であったため相続が許されたと考えられています。

正則は、寛文9年(1669)、城下の山角町(南町)にあった菩提寺を入生田に移転拡大し、長興山紹太寺と名付け、父母と春日局の霊を弔いました。往時は七堂伽藍しちどうがらんの整った大寺院おつぼくしゅうで、黄檗宗独特の広大な庭園が美しい寺院であったと伝えられています。

しかし、幕末の火災によって建物が焼失し、現在では子院の清雲院が紹太寺の寺号を継いでいます。360段の石段を登り、うっそうと茂る樹々、清流がしぶきをあげて流れる様や、みかん畑の中の巨石などが、かつての紹太寺の名残を今に伝えています。

稲葉一族の墓所(春日局の墓)【市指定史跡】

MAP D-2

稲葉氏一族の墓所には、8基の墓石が横一列に並んでいます。どの墓も法名のほか俗名も刻まれているので、丁寧に読めば誰のものか分かります。正面左から稲葉正則、正勝の正室、正勝、春日局、正則の正室、正通(正則の子)の後室、正則の長兄、そして少し離れたところにあるのが正勝の家臣・塚田正家の墓及び供養塔です。墓及び供養塔の型は、正則だけ位牌型で、そのほかは五輪塔です。塚田正家は正勝の一周忌に殉死した忠節をたたえて、藩主の墓地に葬られました。



長興山のしだれ桜【市指定天然記念物】

MAP D-3

長興山のしだれ桜は、エドヒガンの変種で、枝を八方に平均的に広げ、しだれ桜の基本的な形を整えています。3月下旬から4月上旬頃に、周囲の樹叢を背景に滝のようにしだれて咲く姿は見事で、県下にも比類のない名木といえます。

この桜は、稲葉氏が紹太寺を入生田の地に移した寛文9年(1669)に植えられたものといわれていることから、樹齡は340年以上になるとされています。

昭和59年には「かながわ名木100選」、平成7年には「花の名所100選(神奈川)」にも選ばれています。



■交通/箱根登山鉄道入生田駅から徒歩約20分

■株元周囲/約4.7m 樹高/約13m

曾我十郎・五郎兄弟ゆかりの里



曾我兄弟の仇討ち

曾我兄弟の仇討ちは、一族の所領争いがもとで、父親を工藤祐経の家来に殺された兄弟が、18年もの間様々な苦難に耐えて仇討ちを果たしたものです。

この事件は建久4年(1193)5月28日、源頼朝は多くの武将を招き、富士の裾野で大規模な巻狩りを行いました。その夜、曾我十郎祐成・五郎時致



兄弟が、野営地に設けられていた宿所を襲い、巻狩りに随行していた工藤祐経を殺害するという事件が起きました。兄祐成はその場で討ち取られ、弟時致は捕らえられ、処刑されました。

事件のいきさつは、「曾我物語」として脚色され広く普及し、後世には「曾我物」として歌舞伎や能などの題材として好んで取り上げられ、日本三大仇討ちの一つとして、知られています。

城前寺

MAP E-1

城前寺の本堂の裏手には曾我十郎・五郎兄弟、養父曾我太郎祐信、実母満江御前の墓と伝える4基の五輪塔が立っています。また、境内には、兄の十郎が恋人である虎御前をしのび、腰を掛け笛を鳴らしたといわれる忍石があります。

城前寺では、仇討ちの日にあたる5月28日に傘焼まつりが行われています。この祭は、「仇討ちの時、闇夜であったため、兄弟は傘を燃やして松明とした」という故事にならい、傘を焼いて兄弟の霊を慰めるもので、大変めずらしい祭として有名です。



▲曾我の傘焼まつり

※忍石は2つあり、もう1つはP28参照

六本松跡と芭蕉の句碑

MAP E-2

六本松跡は、曾我山(当時山彦山^{やまひこやま}といった)の峠道で、六本の古松があったことからこう呼ばれています。この峠は鎌倉時代、曾我氏・中村氏・松田氏・河村氏の各豪族の居館と鎌倉を結んでおり、曾我別所から足柄峠へと通ずる「鎌倉道」、大山からこの峠を越えて高田・千代・飯泉へ通ずる「大道(中村通)」、そして押切方面より小田原に至る「箱根道」が交わる重要な峠であったといわれています。

現在は、一本の松も存在しませんが、大正7年(1918)孤山人(尾崎八束・宗我神社神官)筆の六本松跡碑があります。また、俳聖芭蕉の句碑があり、この碑は芭蕉復興運動を行った加舎白雄^{かやしらお}が建てたためであるとされています。

伝曾我十郎・虎御前の「忍石」

しのぶいし

MAP E-3

伝曾我十郎・虎御前の「忍石」は、仇討ちを前に十郎祐成と虎御前が逢引した道筋「山彦山の中村道」にあり、2人が腰掛けて別れを惜んだといわれています。

のちに里人は、これを縁結びの石と呼び、意中の人の名を書いたこよりをこの石に結ぶと、必ず願いが成就したと伝えられています。



でんそがすけのぶほうきょういんとう

伝曾我祐信宝篋印塔

MAP E4

伝曾我祐信宝篋印塔は、昔から土地の人々が「祐信さんの供養塔」と呼んでいますが、銘を持たないので、造塔の意図、年次、造立者等は一切不明です。

塔の総高は2.2m(下段一段目を除く)で、基壇の上に蓮座、基礎、塔身、笠、相輪の順で積み上げ

られた鎌倉時代の関東における基本的な様式を備えた屈指の宝篋印塔です。



宗我神社と尾崎一雄

MAP E-5



宗我神社は、曾我祐信が再興したとされる曾我郷六ヶ村(上曾我、曾我大沢、曾我谷津、曾我岸、曾我原、曾我

別所)の総鎮守で、江戸時代には小沢明神^{おさわみょうじん}と呼ばれていました。長元元年(1028)曾我播磨守保慶の建立で、曾我氏の祖先を祀った神社といわれています。

明治に入り、六ヶ村それぞれの鎮守をこの社に合祀し、新たに宗我神社となりました。現在の社殿は、大正12年(1923)関東大震災後に復興したものです。

宗我神社の神主の家に生まれた尾崎一雄(1899～1983)は、昭和12年(1937)に第5回芥川賞を受賞し、昭和53年には文化勲章を受章しました。作品の舞台は生まれ育った下曾我を中心とするものが多く、昭和の代表的私小説家として独自の境地を開きました。

宗我神社の大鳥居付近に建立された尾崎一雄文学碑には、下曾我から見える富士の姿を記した「虫のいろいろ」の一節が刻まれています。



▲尾崎一雄文学碑

源平合戦の地・石橋山古戦場



石橋山古戦場

MAP F-1

平安時代の末期、地方には私有地である荘園が増え、律令制度は徐々に崩壊していきました。

荘園を開発した地方の豪族すなわち武士たちは、東国の武蔵・相模に多く、小田原地方には曾我氏、大友氏、小早川氏、中村氏、河村氏、松田氏などの一族がいました。

西国の武士を従えた桓武平氏は、保元の乱(保元元年(1156))、平治の乱(平治元年(1159))における朝廷内部の争いを利用して勢力を広げ政権を握りました。これに対し東国武士に信望のあった清和源氏は、治承4年(1180)高倉宮^{たかくらのみや}以仁王^{のちりちとあう}の平氏追討の令旨をかかげて、源頼朝が伊豆で挙兵しました。

伊豆・相模の武将の援軍を得て300余騎を従えた頼朝は、鎌倉に向かう途中の石橋山で前方^{おおぼかげちか}の大庭景親の3,000余騎に、後方^{すげちか}を伊東祐親の300騎に挟まれて大苦戦となりました。これが「石橋山の合戦」です。

頼朝方の先陣・佐奈田与一義忠が敵将の^{またのかげひさ}俣野景久と対戦したのを発端として戦闘に入りましたが、10倍を越える敵の軍勢に頼朝方は破れ、箱根山中に逃れた後、真鶴から海路で安房(千葉県)へ向かいました。

佐奈田与一と佐奈田霊社

MAP F-2



石橋山の合戦で、頼朝方の佐奈田与一義忠は敵将の俣野景久を組み伏せましたが、与一の刀は血糊がこびりついて抜けず、その間に敵の長尾新六に討ち取られてしまいました。

与一が俣野景久を組み伏せた畑が今でも「ねじり畑」として残っていますが、戦いの後、この畑の作物はみなねじれてしまうということからこの名になったといわれています。

その与一の遺骸を葬ったのが与一塚です。その傍らには、佐奈田霊社が建っています。この霊社には、与一が景久と組み討ちをする中、味方からの問いかけに対し「たん」がからんで声が出ず、そうこうしているうちに、敵に討たれてしまったという故事から、たん、咳、ぜんそく、声に霊験があるとして知られ、芸能関係者の参詣も多くあります。

【与一塚は県指定史跡】

五百羅漢から久野の史跡めぐり



天桂山玉宝寺こひやくらかん (五百羅漢)

MAP G-1



▲五百羅漢像 天文3年(1534)

天桂山玉宝寺は、北条氏の家臣・塀和伊予守(天桂寺はがいよのかみ)殿活翁宗漢居士が、祖母である玉宝貞金大姉の追福のため、に開いた寺であると伝えられ、伊予守と祖母の法名をとって寺号としています。この寺は五百羅漢を安置する寺として知られ、「多古の五百羅漢」と呼ばれています。

この五百羅漢は、木造で、立像は36cm～60cm、坐像のものは20cm余です。五百羅漢は木造のものや石造のものなど各所にありますが、木造でこれだけ立派に揃った五百羅漢は全国的に見ても珍しいとされています。五百羅漢像の造立は、享保15年(1730)からで、檀家の添田智鉄が一念発起し、7年間で170体を造りましたが途中で病没したため、弟の真澄が跡を継ぎ、宝暦7年(1757)に完成し、寺に安置したといわれています。

【五百羅漢は市指定有形民俗文化財】

久野の古墳群

MAP G-2

久野にある古墳群は、古墳時代の後期に属する高塚式円墳の古墳としては県下有数のもので、120基程度の存在が推定されています。



▲久野1号墳

現在は1号墳、2号墳、4号墳及び15号墳などが残っており、このうち4号墳と15号墳は発掘調査のあと石室を復元して、一般の見学ができるようになっています。

【久野1号墳・4号墳は市指定史跡】

ほうじょうげんあん

北条幻庵屋敷跡

MAP G-3

北条幻庵は早雲の子として生まれました。幼年時代に箱根権現の別当職を約束され、京都に出て三井寺で修学したり、学者や文化人について諸芸を学び、格調高い歌を詠む文化人でもありました。天文10年(1541)に兄氏綱が逝去した後は、3代氏康、4代氏政の後見人として一族の長老的存在となりました。

幻庵は北条氏が滅びる8ヶ月前に北条氏の盛衰とともに幻庵屋敷で97歳で亡くなったとされています。久野にある幻庵屋敷跡には、土塁や築山の跡があり、清水がわき出す泉に昔をしのぶことができます。

二宮尊徳の遺跡めぐり



二宮尊徳

二宮尊徳（金次郎）は、天明7年（1787）7月23日、父利右衛門と母よしの間に生まれました。二宮家はもともと中流の地主でしたが、父が病弱であったため、尊徳は父に代わって農作業にはげみました。また、近くを流れる酒匂川の治水工事にも参加していました。

その後、度重なる酒匂川の洪水と相次ぐ父母の死により、一家は離れ離れになり、尊徳は16歳から18歳までを伯父の万兵衛の所で過ごすことになりました。万兵衛は、彼が立派な百姓になれるよう、厳しくしつけました。夜遅く本を読んでいるのを油がもったいないと叱ったのも、そのためです。しかし、尊徳の勉強好きは変わらず、自分で菜種を植えて油

を手に入れるなどして読書を続けました。

20歳の時独立し、自分の田を開墾すると同時に武家に奉公しながら田畑を買い戻して24歳の頃には、一町歩（約1ヘクタール）の地主にもどりました。

文政4年（1821）に小田原藩家老服部十郎兵衛の家計を立て直したのをきっかけに文政5年には、大久保忠真の命令で小田原藩の分家宇津家が治める下野桜町領（現在の栃木県真岡市）復興に着手しました。このため、尊徳は再興した家や財産を売り払い、桜町に移住しました。

嘉永6年（1853）には幕府から日光神領の復興を命じられました。幕府からの事業資金はなく、尊徳は奔走して1万両余の資金を調達し、事業を始めました。病身を押して領内の89か村を巡回し、用水路を作り、荒地を開墾



▲二宮尊徳生家

して着々と成果を上げましたが4年目にしてついに病に倒れ、安政3年（1856）、70歳の生涯を閉じました。

封建社会の中で農民らを救う道として独特の「報徳仕法」を生み出した尊徳の教えは、今も各地に生き続いています。

尊徳の生家は、売却・移築され他所で農家の住宅として使用されてきましたが、今は小田原市栢山の尊徳記念館に隣接する元の場所に移築・復元されています。付近には、捨苗栽培地跡、油菜栽培地跡、坂口堤、報徳堀、尊徳墓所などの遺跡があります。

【二宮尊徳生家は県指定文化財】







尊徳記念館展示室

- 開館／9:00～17:00（入館は16:30まで）
- 休館／年末年始
- 交通／小田急線富水駅または栢山駅徒歩約15分




交通アクセス

鉄道

	J R 東海道新幹線	東京	●	小田原	…… 35分
	J R 東海道新幹線	新大阪	●	小田原	… こだま3時間30分 ひかり2時間30分
	J R 東海道本線	東京	●	小田原	… 1時間 25分 快速1時間10分
	J R 湘南新宿ライン	新宿	●	小田原	… 1時間10分
	小田急ロマンスカー	新宿	●	小田原	… 1時間10分
	小田急線急行	新宿	●	小田原	… 1時間35分

自動車

	東名高速道路 小田原厚木道路	東京	●	厚木 IC	●	小田原	…… 約 1 時間
---	----------------	----	---	-------	---	-----	-----------

お問い合わせ

観光全般	◆小田原市観光課	☎0465-33-1521
	http://www.city.odawara.kanagawa.jp/kanko/	
	◆小田原市観光協会	☎0465-22-5002
	http://www.odawara-kankou.com/	
	◆小田原駅観光案内所	☎0465-22-2339
小田原城	◆小田原城	☎0465-23-1373
文化財	◆小田原市文化財課	☎0465-33-1717
郷土史	◆小田原市郷土文化館	☎0465-23-1377
郷土史・文学	◆小田原市立図書館	☎0465-24-1055